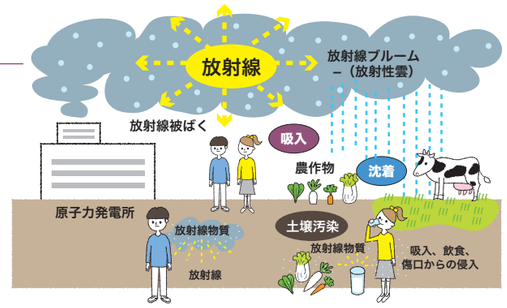
原子力災害の時

原子力災害の特徴

原子力災害とは、原子力事業所などから放射性物質や放射線が異常な水準で漏れ出し、周囲に被害が生じることを言います。放射性物質や放射線の存在は目に見えないため、被ばくの程度を自ら判断することはできません。そのため正しい知識をもち、正しい情報を得て行動する必要があります。

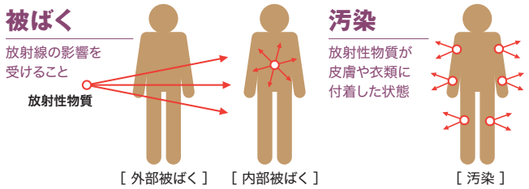


内部被ばくと外部被ばく

放射性物質が体の外にあり、体外から放射線の影響を受けることを外部被ばくといいます。

一方、放射性物質が体の内部にあり、体内から放射線の影響を受けることを内部被ばくといいます。

※放射性物質が付着した状態を汚染といいます。
※放射性物質を取り除くことを除染といいます。



原子力災害が発生したら正しい情報を得る

原子力災害が発生したとき、岐阜市はテレビ・ラジオ等の報道機関，防災行政無線や広報車を使って住民のみなさんに情報を伝えます。デマにまどわされないよう落ち着いて行動しましょう。

防護対策

原子力災害から身を守るには、放射性物質に近づかない・取り込まないこと、放射線を遮へいすることが大切です。

屋内退避

気密性が高いコンクリートの建物への退避が有効です。屋内退避の指示がでたら速やかに建物内に入り、ドアや窓をすべて閉めましょう。

- ●換気扇やエアコンを止める。　●ペットを室内に入れる。
- ●外から帰ってきた人は手や顔を洗い、衣服を着替える。
- ●着替えた衣類はビニール袋に保管し、他の衣類と区別する。
- ●屋内の食品には蓋をしたり、ラップをしたりする。

避難

住民が一定量以上の被ばくをする可能性がある場合に実施される対策で、放射性物質から離れることにより、被ばく量を減らすことが目的です。避難の指示がでたら、避難方法、避難先など、指示の内容をよく理解し、あわてず落ち着いて行動しましょう。

※マスクや、水にぬらして堅く絞ったハンカチ等で鼻、口をおおうことで、放射性物質の吸引を防ぐ効果があります。

大雪の時

- ●除雪作業の事故に注意
- ●雪道運転の3つのNG

×急発進　×急ハンドル　×急ブレーキ

気象台では大雪が予想される場合は大雪注意報・警報を、強い風を伴う雪が予想される場合は風雪注意報・暴風雪警報を発表します。降雪時の路面は非常に滑りやすくなっています。外出時には滑りにくい長靴などを履き慎重に歩きましょう。自転車やオートバイには乗らないようにしましょう。➔ 情報の入手方法 P29

除雪作業の注意点

- ●作業は家族、近所の人に声をかけて２人以上で行う。　●建物の周りに雪を残して雪下ろし。　●晴れの日ほど要注意。
- ●はしごは必ず固定する。　●除雪機の雪づまり処理はエンジンを切ってから行う。　●携帯電話をもって作業する。
- ●水路への雪捨ては慎重に行う。

雪道の安全運転

- ●スタッドレスタイヤまたはチェーンを装着する。
- ●車についた雪はすべて落とし、凍ったガラスはしっかり溶かしてから出発する。
- ●下り坂や交差点ではフットブレーキのみに頼らず、エンジンブレーキを活用する。
- ●積もった雪で道路の境界が見えなくなるので路肩に注意する。　●わだちに沿って走行する。　●燃料の残量に注意する。
- ●橋の上、トンネルの出口は路面状況が変わるので注意して走行する。　●降雪時車を離れる際はワイパーを上げておく。
- ●用意しておくと便利なもの。
  ブースターケーブル／ジャッキ／スコップ／長靴／防寒着／手袋／アイススクレーパー／懐中電灯／霜とりスプレー

感染症の時

感染を拡大させないため、予防対策を徹底して行う

感染症とはウイルスや細菌が体内に侵入し、増殖して発症する疾患の総称です。特にお年寄りや乳児、妊娠中の女性は症状が悪化する危険性が高いので注意が必要です。人が集まる学校や職場、満員電車では感染が拡大する可能性があります。また、災害時避難所は多くの人がひとところで生活しなければなりません。避難生活の長期化に伴い、ストレスや栄養不足などで免疫力がおとろえると、感染症にかかるリスクが高まります。できるだけ生活環境を清潔に保ち、一人ひとりが感染症の予防対策をとることが重要です。➔ 避難所での健康管理 P34

予防対策

感染症を予防するには第一に感染経路を絶つことが大切です。

手洗いうがい

感染症予防の基本は手洗いうがいです。せっけんで指先から爪の間まで念入りに洗いましょう。

- 外出先から帰った時
- 感染症物質に汚染された表面に触れた後
- 血液や体液に触れた後
- トイレを使用した後
- クシャミや鼻をぬぐった後
- 調理や食事の前

手袋、マスク

感染者の血液や体液、吐しゃ物、排せつ物に触れる可能性がある場合は必ず手袋をして接触を防ぎましょう。

感染の予防だけでなく、自らが他の人に感染させないために、咳やくしゃみがでるときは必ずマスクを着用しましょう。

アルコール消毒

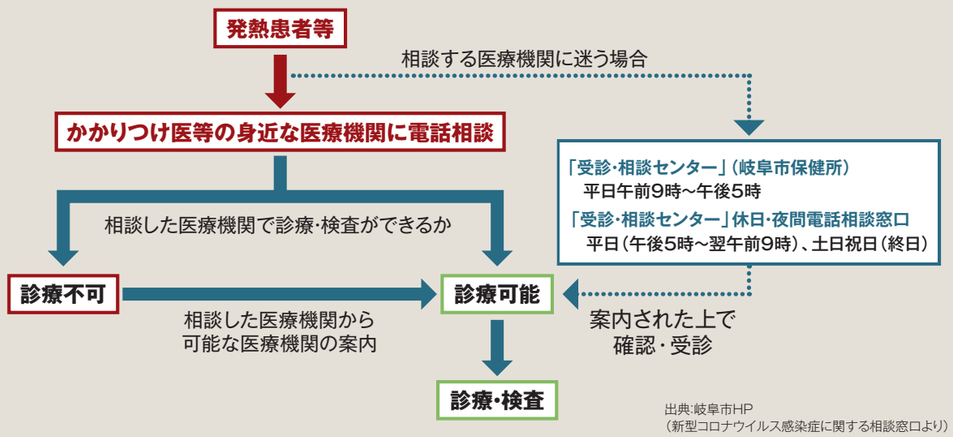
アルコール消毒の場合は、短時間で付着している菌を確実に減らすことができるため高い予防効果が期待できます。しかし、アルコール消毒には、手の汚れを落とす効果はありません。明らかに手が汚れているときは、まず石けんで手を洗い、完全に乾かした上でアルコール消毒をしましょう。ウイルスや細菌の中にはアルコール消毒による殺菌が期待できないものもあるので、石けんでの手洗いとアルコール消毒を併せて行うのが最も効果的です。

新型コロナウイルス感染症の恐れがある時の対応

息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）を感じる等、感染症を疑う症状が発症した場合、まずはかかりつけ医等の身近な医療機関に電話で相談しましょう。相談する医療機関に迷う場合は、受診・相談センターに相談してみましょう。

受診・相談センター	◎岐阜市保健所／058-252-0393　◎休日・夜間電話相談窓口／058-272-8860

発熱等の症状がある方の相談・受診の流れ



出典:岐阜市HP
（新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口より）

災害時の対応

感染症が蔓延している中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です。

避難所においては、「密閉・密集・密接」になりやすく、感染が拡大する可能性があります。特に高齢者や基礎疾患のある被災者は重症化のリスクが高いので留意しましょう。

分散避難

感染症蔓延を防ぐ為、避難先は避難所だけでなく、「在宅避難」や親せき宅、知人宅、立体駐車場等に一時的避難（風水害の避難時）をするなど「分散避難」について事前に検討しておくことが重要です。

水害時の在宅避難では、自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域に入ってないか、浸水深より居室は高いか、水が引くまで我慢でき、水や食料の備えが十分か。この3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅にとどまることが可能です。

避難所へ避難する場合は、避難所受付時の混雑を防ぐため、受付で記入する「避難者カード」を事前に記入しておきましょう。

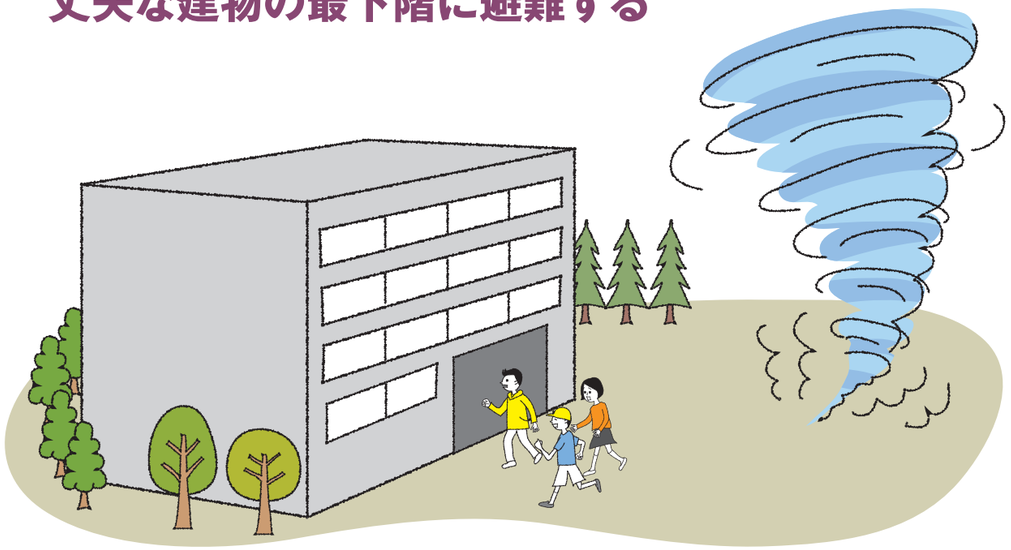
➔ 避難者カード　巻末

避難所での健康管理

- 非常用持出し袋に、使い捨て手袋・マスク・消毒液・石鹸・体温計等の準備をしましょう。
- 避難当日の健康状態を「健康状態チェックカード」に記入し、避難所の事前受付に提出してください。➔ 健康状態チェックカード　巻末
- 定期的に健康状態について確認し、手洗い・手指消毒、マスクの着用、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。
- 避難所内については、十分な換気に努めるとともに、十分なスペースを確保しましょう。
- 食事は少人数で行い、ゴミの処理は個人で行いましょう。
- 物品等は定期的に、家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。

竜巻の時

●竜巻の発生を確認したらすぐに丈夫な建物の最下階に避難する



竜巻は台風や寒冷前線、低気圧にともなって突発的に発生し、短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらすため注意が必要です。竜巻は突然発生するだけでなく、非常に速いスピードで移動します。竜巻の発生を確認したら直ちに丈夫な建物に逃げ込むなどの避難行動をとりましょう。

竜巻が発生しやすい気象条件

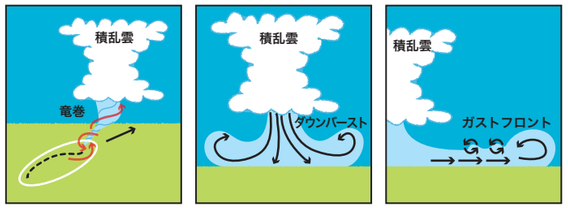
竜巻は、発達した積乱雲にともなう強い上昇気流によって発生する突風です。

特に夏から秋にかけて竜巻の発生確認数が多くなっています。

※発達した積乱雲の付近では竜巻だけでなく「ダウンバースト」や「ガストフロント」と呼ばれる突風による被害もあります。

積乱雲に伴って発生する突風の種類

資料：気象庁



気象庁では、竜巻による激しい突風が予測されるときに、「竜巻注意情報」を発表しています。しかし、現在の技術では竜巻注意情報の予測精度は高くありません。空の様子に注意して、周囲に危険が迫っているか自ら判断することが大切です。特に建設現場や人が大勢集まる屋外のイベント会場、運動会などの学校行事は、従事者や参加者が多いため、避難に時間がかかることが予想されますので、空が急に暗くなったり、冷たい風が吹くなどの前兆現象を感じたら早めに避難を開始しましょう。

前兆現象

- ●黒い雲が近づき急に周囲が暗くなる。
- ●雹がふってくる。
- ●草むらや土の匂いがする。
- ●漏斗状の雲が目撃される。
- ●冷たい風が吹く。
- ●雷鳴が聞こえる。
- ●気圧の変化で耳に異常を感じる。

※夜間や外の様子が見えないときは、音や耳の異常に注意しましょう。

雷の時

●すぐに鉄筋コンクリートの建物や自動車の中に避難する

●少しでも低い場所をさがし、両足をぴったりとじて身をかがめる

●“木陰で避難”はぜったいにNG

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳など、どこにでも落ちる可能性があります。運動場、競技場やゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難しましょう。鉄筋コンクリートの建物、自動車（オープンカー以外）、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。また、木造建物の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m 以上離れれば更に安全です。

雷鳴がきこえたら

落雷による事故には、

①直撃する。
②木や高いものに落ちた雷が間接的に飛んでくる。
③地面を伝わって感電する。

の、3つのタイプがあります。また、「髪の毛が逆立つ」、「肌の表面がチクチクする」などは落雷の前兆です。雷鳴がきこえたり、前兆現象を感じたら、まずは鉄筋コンクリートの建物や自動車の中に避難しましょう。

※自動車のなかに避難する場合は、金属部分には絶対にさわらず、なるべく車の中心に身を寄せる必要があります。また、高い木の下や、建物の軒先で雨宿りをしていると落ちた雷から間接的に感電する可能性があります。高いものからはできるだけ離れることを忘れてはいけません。

安全な空間に避難できない場合の対応

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。その際は、両足をぴったり閉じてしゃがみましょう。足をひらいた状態でしゃがんでしまうと、足が電気の通り道になり感電する可能性があります。

しゃがむ時のポイント

①頭を下にかがめる（できるだけ姿勢を低くする）。
②両手で耳をふさぐ。
③足の両かかと同士をあわせる。
④つま先でたつ（できるだけ地面との接触面を減らす）。

持っている荷物はすべて体から離して、地面に置きます。また、雷は人から人へも飛んでいきます。いっしょにいる人とはできるだけ離れましょう。地面に手をついたり腹ばいになるのは、地面との接触面が大きくなるため危険です。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。